

=ファイナルレポート=

**K 2013 業界の期待に大きく応える
多数の革新的な製品がビジネスの対象に
出展者は見本市終了後のビジネスに大きく期待**



何か月にもわたり市場状況の変革を経験した企業が、プラスチック・ゴム産業分野の将来を決定付けるほどの革新的な製品を携え、ユーザー業界の隅々までに披露するべく、世界で最も重要な業界イベント、デュッセルドルフ K 2013 に集まりました。出展者の期待は 8 日間のメッセ期間に満たされ、さらにメッセ後のビジネスに大きな期待となって続いています。多くの出展者から、具体的な引き合いや来場者との熱心な商談、さらにはスポット的にも成立した取引契約について報告されています。

K 2013 実行委員長の U. ライフェンホイザー氏は「今回、来場者の投資に対する熱心さは期待したよりも強かった。デュッセルドルフで初めて披露された革新的な製品やその応用は、来場者の強い関心を惹き付けたにとどまらず、具体的な商談段階に入っている所もあり、また契約の成立も見られた。多くの来場者は、グローバルな競争に勝ち残るべく生産能力を拡大し、最新の技術の導入を行っているようで、我々としてはメッセ終了後のビジネスに大きな期待をかけている。業界も発展すると確信している。」と、今回の印象を述べています。一方 **K 2013 を主催者するメッセ・デュッセルドルフの代表取締役社長 W. ドーンシャイト**は、**120 カ国を超える国々から約 218,000 人という来場者の記録**から「K は、世界で最も重要なプラスチック・ゴム産業界のイベントであり、また今後もそうあり続ける。ここでは、生まれたばかりの最新技術から充分開発された技術までのすべてを見て取ることができる。今回は、特に外国からの来場者の投資への意欲が強いことが感じられた。2 人に 1 人は具体的な投資計画を持ってデュッセルドルフの K 2013 を訪れている。」とまとめています。

会期中に実施されたアンケート調査によると、来場者の国際性がさらに高まり、**全来場者約 218,000 人**(前回 222,486 人)の 58%がドイツ国外からで、そのほぼ半数は欧州域外からの来場であることが分かりました。アジア地域からは約 30,000 人で最も多く、日本、イラン、インドネシア、台湾、中国からの来場数が顕著に増加しました。因みに、アメリカ・カナダから約 8,100 人(前回より 1,300 人増加)、中南米から約 11,000 人となっています。また、来場者全体の約 2/3 は各企業のトップマネジメントおよび中間管理層に属する方々でした。

今回、出展参加した企業は 3,200 を超え(前回 3,094 社)、日本からは 28 社が直接出展者あるいは共同出展者として参加しました(外国の子会社や代理店出品を除く)。

弊社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン(MDJ)は、前回の 2010 年に引き続き、日本企業のヨーロッパ市場さらには世界市場へのビジネス拡大に貢献するため、**ジャパンパビリオン**を会場東入口に直結する 14 号館に設置し、6 社に出展を頂きました。ジャパンパビリオンへの出展参加者の声として「規模が日本とは比較にならないくらい大きいので圧巻でした。本当に様々な国・地域か

ら来場があり、期待したように可能性を開くことができたように感じました。(北村化学産業株式会社)、「初めての出展でしたが、さすが世界最大の専門展示会と言う事だけあって想像以上に来場者が多く、満足しております。場所がすごく良かったので感謝しています。(共和ゴム株式会社)」などと、感想を寄せていただいています。

単独出展した企業からはK 2013に対して「予想以上の成果。今までコンタクトのできなかったエンドユーザー、例えばBMW、Mercedes等との面談が出来て、将来のビジネスにつながる確信が出来た。期待(予想)していなかったターゲット顧客に訪問していただき、口コミで他の部門、エンジニアに当社のブースを訪問するようとの情報が伝わり、大きな成果を達成出来た。(ポリプラスチックス株式会社)」、「EU 域外の来場者も多く、国際ビジネスショーを痛感しました。今回は初めての単独出展でしたが、多くの有効な商談が出来た。ただ、他の展示会場に比べて通路が狭く、遠方のブースが分かりにくいと感じました。(積水化成品工業株式会社)」、「普段の営業活動では出会えない潜在顧客と打ち合わせすることが出来て満足。(長瀬産業株式会社)」などと評価を頂きました。

日本の出展社のプレゼンスを広くアピールするため、弊社は日本の出展企業を集めた小冊子「[Japanese Exhibitors Directory](#)」を作成し、事前にホームページへ掲載、データを主要国代表部に送付したほか、会期中は会場の入口や全 19 ホールに設置されたインフォメーションカウンターで配布し、日本企業への来場者誘致に努めました。因みにホームページに掲載された「Japanese Exhibitors Directory」のページには、開催初日の 10 月 16 日と 2 日目の 17 日には合計で 2,300 を超すアクセスを数え、日本からだけではなく、ドイツ、アメリカ、中国、タイ、チェコ、イタリア、台湾などのプラスチック有望市場からもアクセスがありました。

また、弊社は日本からの来場者にも十分な成果を上げていただくため、会期中の 10 月 21 日を **ジャパン・デー**として、前回同様イベントを開催いたしました。

午前中の 10 時 15 分から 12 時 30 分までは、機械分野と素材分野に分かれ、各分野の注目出展企業のブースを巡る**ハイライトツアー**を挙行、訪問企業では広報担当者などから各社自慢の製品についてプレゼンテーションを受けました。「単独ではアポ取りが至難の業で、このようにプレゼンテーションを受けられて良かった。」との評価を頂いています。(効果の低下を避けるため、各コースの定員を 20 名までとし、参加をお断りせざるを得なかった状況が生じたこととお詫びいたします。)

午後は 2 時から 4 時 30 分までは、**現地セミナー**を実施いたしました。テーマの設定に当たっては、事前に日本の業界・報道関係の皆様からのご意見を反映させました。

セミナーのテーマは、第一部がグローバル市場・市場参入、第 2 部は新技術から構成され、50 人を超す方々に参加いただきました。参加された方の中からは「広い会場では日本語の情報が皆無だったため、このセミナーで現在のプラスチック産業の容姿やトレンドを把握できてよかった。」との評価もいただいています。

夕刻の6時30分からは、会場内のコンgresセンターで日本の出展企業の方々と交えての懇親会を開催しました。約80名の方々に参加いただき、ライン川の流れを望むレストランで和やかなひと時を過ごしていただきました。

次回 K 2016 は、2016年10月19日から26日までデュッセルドルフで開催されます

(出展お申し込みは2015年2月に開始され締め切りは、開催1年半前の2015年5月末となる予定です。ご関心のあるかたは、下記までご連絡ください。)

㈱メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン(MDJ)

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1

ニューオータニガーデンコート7F

Tel.03-5210-9951 mdj@messe-dus.co.jp

<http://www.messe-dus.co.jp> (MDJ ホームページ)

<http://k.messe-dus.co.jp> (K 日本語ホームページ)

<http://www.k-online.de> (K 英語・ドイツ語ホームページ)